

## 序

当教育研究所では、平成4年度も恒例の事業となっている教育論文集の刊行を企画し、論説の部、実践研究の部に分けて原稿を募集しましたところ、社会教育、学校教育の関係者の方々から15編の原稿をお寄せいただきました。

本年は、論説の部に4編、実践研究の部に9編の応募をいただきました。

論説の部では、日頃の英語学習において、日本人教師の立場から英語指導助手とのチームティングの在り方についての提言を、また本市の英語指導助手が学校訪問のシステムについて、国際理解における日本人の外国人観について、英語の理解を英語という言語を通しての理解の必要性についてなどの建設的な提案をしています。

実践記録につきましては、社会体育関係者から生涯スポーツの推進に関する施設開放についての実践研究をいただきました。

学校教育関係では、関係者のみならず普通学級の先生方にも是非ご一読いただきたい「ことばの教室」と「きこえの教室」の実践、野鳥の観察を通して自然に親しみ自然を愛護する教育の実践、説明的文章の読み取りに焦点を当て学び方を意欲的に学ぶ国語科の実践、最近の学校建築で多く採用されているオープンスペース等の活用により学習効果を高める実践、視聴覚教材のテレビ放送教材を活用した生活科の実践、算数科図形領域において子ども一人一人の特性を重視した学習展開の実践など、いずれも今日的な教育課題に真剣に取り組まれた力作であります。

以上、多くの教育関係者の方々から日頃の教育的思索や研究実践の成果を発表していただきましたが、これらの論文は読者のみなさんの教育観を深める大きな契機となるに違いありません。したがって、ここに示された貴重な教育論文を、今後とも各教育現場における日々の実践に十分生かされることを期待いたします。

なお、昨年度に引き続き今年度も、教育論文第1集から昨年度までに掲載された論文のテーマ及び執筆者一覧を付記しましたので、今後の研究の一助としてご活用いただけたら幸いです。

終わりに、論文をお寄せくださった研究者の方々をはじめ、関係の方々にお礼を申し上げるとともに、皆様のますますのご活躍を祈念して序といたします。

平成5年3月

足利市立教育研究所長

大塚晴雄